

会議録

作成日 令和4年5月17日

日時	令和4年5月11日(水) 13:30 ~ 14:30	場所	特別養護老人ホームすこやか苑 1F 相談室
会議名	令和4年度 第1回 運営推進会議		
出席者	家族代表・民生児童委員・地域包括支援センター職員 入居者代表(出席者とのリモートによる面談という形で部分参加) 施設長・生活支援課長(生活相談員)・副主任支援員(介護支援専門員)		
1 開会	※ 簡易な自己紹介実施		
2 挨拶 施設長	<p>今年度最初の運営推進会議にご参加いただき、ありがとうございます。今年度から新たに家族代表としてご参加いただいた安保様、よろしくお願いいたします。</p> <p>運営推進会議は、地域密着型サービスを運営する事業所に義務付けられた会議です。目的は、ご家族、地域住民代表、地域包括支援センター等に施設の活動報告を行い、評価を受け、要望や助言をいただき、地域に開かれた施設として活動できるようにするためです。</p> <p>コロナ禍で地域との交流など制約がありますが、今できることは何かと考え、少しでも地域のために地域に開かれた施設として活動して参ります。本日も自由闊達なご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>		
3 議事	<p>(1) 運営推進委員委嘱について</p> <ul style="list-style-type: none">運営推進会議の位置づけの確認、委員会の構成メンバー、会議日程を確認した。第6回の委員会は、家族連絡会と合同開催予定。ただし、コロナ感染等の状況によっては、家族連絡会が中止となる可能性あり(コロナ感染拡大後の2年間は開催できていない)。 <p>(2) 令和4年度特別養護老人ホームすこやか苑事業計画について</p> <p>※別添「令和4年度特別養護老人ホームすこやか苑事業計画」参照</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度の事業計画について、重点事項を中心に説明した。 <p>(3) 令和3年度特別養護老人ホームすこやか苑事業報告(案)について</p> <p>※別添「令和3年度特別養護老人ホームすこやか苑事業報告(案)」参照</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度の事業報告(案)について、概要を説明した。事業報告(案)は、今後開催される理事会で承認される予定。 <p>(4) すこやか苑の運営状況について</p> <p>※別添「令和4年度第1回特別養護老人ホームすこやか苑運営推進会議資料」参照</p> <ul style="list-style-type: none">資料に沿って、令和4年3月~4月における入所・事故・研修・行事等の報告を行った。		
4 意見交換	<p>(1) 令和4年度特別養護老人ホームすこやか苑事業計画について</p> <p>Q: 重点事項で、個別支援を強化するとあるが、具体的にはどうするのか。</p>		

A： 基本的には各ユニット職員へまかせているが、入居者に聞き取りを行い、本人が希望する活動、例えば、買い物に行きたいとか食事に出かけたいとあった場合に、ケース担当職員と二人で出かけるなどを想定している。現に、コロナ感染対策で飲食は控えているが、職員と二人で買い物に出るケースがある。グループホームの取組に近い。

(2) 令和3年度特別養護老人ホームすこやか苑事業報告(案)について

Q： 隣接する養護老人ホーム安生園と一緒に取組はないのか。

A： コロナ感染前は、安生園で開催する夏祭りなどに入居者をお連れすることがあったが、現在は行っていない。昨年度に関しては、安生園で企画したねぶた運行(地域の企業によるボランティア)開催時に当苑も一緒に参加させてもらった。

(3) すこやか苑の運営状況について

Q： 入居者の散髪の頻度はどれくらいか。

A： その人によるが、だいたい2～3カ月に1回が多い。男性だともう少し頻度が多い。

5 その他

- ・ 入居者代表と各委員がリモートにて面談を実施。生活状況等を確認してもらった。
- ・ 次回委員会は、令和4年7月13日(水)13:30～を予定とするが、事前に連絡を取り、皆さんが参加できる日時に変更する場合もあり。

6 閉会

○入所状況

■入 所	定員29人	
■稼働率	3月(97.9%) ※入所1名 退所1名	4月(95.2%) ※入所0名 退所1名
■平均介護度	3月(4.1)	4月(4.2)
■平均年齢	3月(89.6歳)	4月(90.3歳)
■入所申込状況	3月(3件)	4月(1件)
	※総待機者数 46名(5/11付け)	

■短期入所	定員10人	
■稼働率	3月(82.6%)	4月(76.0%)
■平均介護度	3月(3.0)	4月(2.9)
■平均年齢	3月(90.8歳)	4月(90.5歳)

○事故報告について

※ 毎月安全委員会にて対策検討

■令和4年

区 分/月	3月	4月
ヒヤリハット	1	5
アクシデント	8	5
事故(Lv3以上)	1	0

ヒヤリハット・アクシデント内容

区 分/月	3月	4月
転倒・転落	6	3
服薬	2	3
原因不明の傷	1	1
連絡ミス		2

■事故事例（事故 Lv3 以上：通院を伴った事故ほか市役所へ事故報告したもの）

区 分	発生日	内容・対応
転倒 (入所)	3/23	<p>18:15 職員が居室入口小窓より様子を伺うと、トイレ扉脇でバランスを崩し、壁伝いに後方へ転倒していくところを目撃。入室したが間に合わず、尻餅をついて転倒。</p> <p>18:45 腰部に強い痛みあり、左側臥位の状態のまま、様子観察し、バイタル測定。自宅待機の看護師へオンコールし報告。</p> <p>19:05 看護師到着、圧迫骨折の疑いあり県病救急外来受診検討、生活相談員から家族へ報告し了承いただく。受診し、腰部 CT 検査実施、骨折の所見なく、湿布・座薬の処方あり、帰苑。痛みあり座薬挿入・湿布貼付した。家族へ通院結果を報告。</p> <p>■原因</p> <p>①職員要因：細目に居室内の様子を確認していたが、危険な時に様子確認ができなかった（危険を察知したが間に合わなかった）。</p> <p>②本人要因：サンダルを履き忘れたため、車椅子からの立ち上がり時足が滑り転倒した模様。</p> <p>■再発防止策</p> <p>①危険が予測できる行動の時は、介助や傍で見守りをする。</p> <p>②転倒時、怪我防止のため、危険な箇所にクッション等を設置する。</p> <p>③定期的に居室内の様子確認を続ける。</p>

○身体拘束廃止への取り組みについて

※3月～4月時点で身体拘束にあたる案件なし。

○職員研修等

- ・3/9（水） 研修委員会企画研修「スキンケア」について 16名参加
- ・4/1（金）・4（月） 新任（異動）職員研修 2名参加
- ・4/27（水） 救命救急研修① ※新任職員研修含む 13名参加

※ 上記ほか、法人・外部研修へ数名参加

○主な行事等実施状況（3月・4月）

- ・3/16（水） 書道クラブ
- ・3/23（水） おもひで上映会
- ・4/20（水） 花見外出
- ・4/27（水） 音楽体操クラブ

令和4年度

特別養護老人ホームすこやか苑事業計画書

第9 特別養護老人ホームすこやか苑事業計画

【基本理念】

家庭に近い環境の中で利用者一人ひとりの尊厳が守られ、心穏やかに自分らしく生活できるよう支援します。

【基本方針】

- 1 利用者一人ひとりの尊厳を尊重します。
- 2 家族とのきずなを大切にします。
- 3 地域とのつながりを大切にし、地域の高齢者福祉の拠点を目指します。

1 運営方針

- (1) 施設の基本理念と基本方針の実現に向けて、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者がその能力に応じ、自律した日常生活を営むことができるように支援する。
- (2) 利用者の権利擁護の推進にあたり、高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修会を実施する。虐待の芽チェックリストで評価し、振り返りとフィードバックを行う。
- (3) 地域や家庭との結びつきを重視し、青森市、居宅介護支援事業者及び他の居宅サービス事業者、その他の保健医療及び福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。
- (4) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）において年間を通して、平均利用者数 28.6 人の維持を目指す。
- (5) 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護において利用者の平均利用者数 8.83 人を目指す。

2 重点事項

- (1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実
 - ① 個別の期待や要望、望む生活を実現できる施設サービス計画の充実
 - ② 利用者の個性が発揮されるよう生活の個別性を強化
 - ③ 夏祭りや新年会など季節を感じられる行事の継続実施
- (2) 医療的ケアの充実
 - ① 医療的研修（看取りケアも含む）の強化
 - ② 配置医師及び協力病院との連携強化
 - ③ 認定特定行為業務従事者（痰吸引）の育成及び資格取得者による特定行為の実施
- (3) 人材確保と定着
 - ① 法人事務局キャリア支援課と連携した人材確保
 - ② 職員研修の充実
(異動含め新任職員向け研修の内容充実とユニットリーダーの人材育成)
 - ③ ホームページの情報発信
- (4) 安定的な経営基盤の確保
 - ① 居宅介護支援事業者及び居宅サービス事業者及び保健医療関係機関等との連携
 - ② 入所待機登録者の充実
- (5) 職場環境の改善
 - ① 介護機器やノーリフティングケア導入・検討（委員会の継続）
 - ② ユニット間の応援体制と多職種連携強化

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活相談員	看護職員	介護職員	計
人数	1	1	1	3	23	35
職名	介護支援専門員	栄養士	機能訓練指導員	事務員	専任当直員	
人数	1	1	1	2	3	

※ 施設長・介護支援専門員は介護職員兼務。

4 職員研修

利用者の介護及び支援にあたり、専門職として質の高いサービスを提供するため、職員の資質向上を目指し自己研鑽を促すとともに、施設内外の研修を計画的に実施する。

[年間職員研修実施予定]

月	施設内	施設外
4月	新任者研修 救命救急研修① (緊急対応手順・AED使用方法に関する研修)	
5月	感染症対策研修①(食中毒に関する研修)	
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修①	喀痰吸引研修(6~8月) ユニットリーダー研修(6月)
7月	リスクマネジメント研修①	実習指導者講習会
8月	外部講師研修(口腔ケアに関する研修)	法人内施設実地研修(8~2月)
9月	外部講師研修(看取りケアに関する研修)	
10月	感染症対策研修② (インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染防止に関する研修)	ユニットリーダー研修(10月)
11月	救命救急研修② (救急時の観察項目・対応方法に関する研修)	
12月	リスクマネジメント研修②	安生園すこやか苑合同研究発表会 喀痰吸引実地研修(12~2月)
1月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修②	
2月	外部講師研修(薬に関する研修)	
3月	研修委員会(企画研修)	

※ 新任者研修は、異動含め、新しく着任した職員が参加とする。(中途採用時は随時開催) 上記研修ほか、各委員会で企画した研修会を随時企画し開催する。法人で実施する研修会含め、各職員が年度内に1回以上施設外研修へ参加する。

5 行事

(1) 年間行事・クラブ活動

月	全体行事	クラブ活動
4月		書道クラブ 音楽体操クラブ
5月	防災訓練（風水害想定）	書道クラブ 創作クラブ
6月	ミニ運動会 大掃除	書道クラブ 音楽体操クラブ
7月	防災訓練（火災・地震想定）	書道クラブ
8月	夏祭り・居酒屋	書道クラブ 音楽体操クラブ
9月		書道クラブ 創作クラブ
10月	防災訓練（火災・地震想定）	書道クラブ 音楽体操クラブ
11月	文化祭	書道クラブ
12月	大掃除	書道クラブ 音楽体操クラブ
1月	新年会	書道クラブ
2月		書道クラブ 音楽体操クラブ
3月	家族連絡会	書道クラブ 創作クラブ

※ 上記行事ほかユニット単位で開催する行事（敬老会等）については、随時企画する。

(2) 各種委員会等

委員会等	内容	開催頻度
運営推進会議	法で定められた構成員から、施設運営に対する評価を受け、また施設への要望や助言等を受ける。	2か月に1回
苦情解決協議会	利用者及び家族等からの各種苦情に対し、解決に向けて協議する。	3か月に1回
苦情解決第三者委員相談日	委嘱を受けた第三者委員が輪番で利用者からの苦情を受け付けるとともに相談に応じる。	毎月1回
安全委員会・感染症対策委員会	利用者の安全確保のための事故予防や再発防止を検討し、施設全体のリスクマネジメントを行う。 感染症の予防及び感染防止対策を検討し、全職員へ周知する。 介護職員による喀痰吸引等の業務を安全かつ適正に実施するための体制を整備する。	毎月1回 (3か月に1回以上)

虐待防止・身体拘束廃止委員会	利用者の人権と尊厳を擁護し、主体性を尊重した生活を確保するために高齢者虐待防止・身体拘束廃止に向けた対応を検討する。	3か月に1回以上
褥瘡・排泄ケア対策委員会	褥瘡の発生リスクの高い利用者に対して、その原因と症状、予防対策について検討する。 排泄ケアの技術向上と利用者の状態に応じたケアを検討する。	2か月に1回
ノーリフティングケア推進委員会	介護機器やノーリフティングケア導入に向けた検討及び腰痛予防対策への普及・啓発を行う。	2か月に1回
看取り介護実施委員会	穏やかで、安らかな日々を過ごすための精神面を中心としたケアを検討する。	2か月に1回 ※奇数月開催
広報・ホームページ委員会	すこやか苑の情報を広報誌、ホームページ等により発信する。	年3回
防災委員会	防災対策について検討するほか、防災についての啓発、防災訓練を行う。	年3回
研修委員会	内部研修・研究発表に関する企画を立て、研修への充実を図る。(地域貢献も含む)	2か月に1回 ※偶数月開催

※配置医師からは、必要に応じて、会議・委員会前後に指導・助言を受ける。

6 健康管理

利用者一人ひとりの健康状態を把握し疾病の早期発見に努め、身体的・精神的に健康で安定した生活が送れるよう年間計画に基づき実施する。

感染症については、青森県感染症発生情報等を踏まえ、感染症対策委員会や看護師、配置医師と連携し、感染予防対策に努めるとともに、昨今の想定を超えた感染症等についても、常に情報を得る体制を確保し、関係機関と協力・連携し対応していく。

[年間保健衛生実施予定]

月	内 容	月	内 容
4月	健康診断（胸部X線・採血検査）	10月	
5月		11月	インフルエンザ予防接種 感染症対策強化（ノロウイルス・インフルエンザ）
6月	食中毒対策強化	12月	冬季の健康管理強化（温度・湿度）
7月		1月	
8月	夏季の健康管理強化（水分補給等）	2月	
9月		3月	

※配置医師による保健衛生指導は随時実施。

入浴日他 随時	バイタルチェック （体温・血圧・脈拍・spO2） 皮膚状態の確認	機能訓練	個別機能訓練計画書に沿って実施 ※短期入所は集団体操等実施
毎 月	体重測定	歯科協力医	口腔ケアに係る技術的助言及び指導（月1回）

配置医師 診察	毎週木曜日（13時～14時）	通 年	水分補給等
------------	----------------	-----	-------

7 安全・防災管理

利用者が安全な生活を送れるようリスクマネジメントを推進するとともに、防災対策として次の事項を実施する。

- (1) リスクマネジメントによる介護事故防止等に取り組み、安全で信頼されるサービス提供と施設運営を目指す。
- (2) 防災担当者による自己点検及び法定点検の実施により予防を図る。
- (3) 日常的な火災発生の防止を心掛けるとともに、非常事態における役割分担の徹底と職員・利用者に対して避難方法について周知を図る。
- (4) 消防署等の指導のもと、現実に即した実践的な防災訓練を計画的に年2回（1回目は地域防災協力隊との総合避難訓練、2回目は夜間想定での避難訓練）を実施するほか、自然災害を想定した避難訓練を年1回実施する。
- (5) 隣接する「養護老人ホーム安生園」と災害時等の協力体制を整備し、加えて、「安生園・すこやか苑地域防災協力隊」と連携を図り、地域住民と協力して非常時の備えに万全を期す。
- (6) 感染症・災害発生時における不測の事態において、重要な事業を中断させない、または、中断しても可能な限り短い時間で復旧させるための方針、体制、手順等をまとめた、業務継続計画（BCP）を策定し、随時、見直しを行っていく。

8 地域（住民・ボランティア）との連携と地域貢献

- (1) コロナ禍ではあるが、ボランティア・地域住民との連携が継続できるよう、ICT技術を活用し、協働できる体制を構築する。
- (2) すこやか苑の持つ専門性や技術を研修や講座を通して、地域へ発信する。
- (3) 近隣大学や介護福祉士養成施設、ボランティア団体等との交流を積極的に行い、地域に開かれた施設作りを目指す。

9 実習生の受け入れ

介護福祉士・社会福祉士・栄養士養成のための実習を始め、高校生の職場体験や大学生等のインターンシップの受け入れ体制を可能な限り整備し、充実したプログラムを提供し、担い手の育成を積極的に行う。

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 定 員

29人 10人×2ユニット、9人×1ユニット

(2) 概 要

利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、常に介護が必要な方を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供する。明るく家庭的な雰囲気を作り、地域や家族との結び付きを重視した運営を行う。利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮する。また、各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう支援する。

(3) 支援目標

- ① 常に利用者の心身の状況を的確に把握し、相談援助、日常生活上の世話、機能訓練、年間行事・レクリエーション、その他必要なサービスを利用者の希望に沿って適切に提供する。
- ② 懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。
- ③ 介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。
- ④ 利用者や他の利用者の生命や身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わない。
- ⑤ 衛生管理、感染症の発生予防に細心の注意を払う。
- ⑥ 利用者の心身の状況に応じて、週2回以上入浴又は清拭を行う。また、排泄、離床、着替え、整容等に関し、必要かつ適切な介護を行う。
- ⑦ 利用者の身体状況・栄養状況を踏まえ、嗜好、提供時間、自立支援等に配慮した食事を提供する。
- ⑧ 協力歯科医との連携のもと、利用者の口腔ケアを実施し、口腔衛生の保持と誤嚥性肺炎の予防に努める。
- ⑨ 退所に当たっては、居宅介護支援事業者や他の保健医療福祉サービス提供者と連携し、必要な援助を行う。
- ⑩ 事業計画や社会資源の内容については、利用者等にわかりやすい方法で周知する。

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 定員

10人 10人×1ユニット

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

(2) 概要

居宅の要介護者等に一時的に施設利用していただき、居宅での暮らしに近い日常生活を行う観点から、利用者の自律的生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中での生活できるスペースを備えたユニットケアを行う。また、高齢者の自律支援という視点に立って、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

(3) 支援目標

- ① 常に利用者の心身の状況を的確に把握し、相談援助、日常生活上の世話、機能訓練その他必要なサービスを利用者の希望に沿って適切に提供する。
- ② 懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。
- ③ 介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。
- ④ 利用者や他の利用者の生命や身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わない。
- ⑤ 衛生管理、感染症の発生予防に細心の注意を払う。
- ⑥ 利用者の心身の状況に応じて、週2回以上入浴又は清拭を行う。また、排泄、離床、着替え、整容等に関し、必要かつ適切な介護を行う。
- ⑦ 利用者の身体状況・栄養状況を踏まえ、嗜好、提供時間、自立支援等に配慮した食事を提供する。

- ⑧ 介護予防短期入所生活介護における要支援者に対しては、要介護状態への移行軽減や未然防止のために介護予防を目的として日常生活上の支援を行う。
- ⑨ 利用者の心身の状態、家族等の事情等からみて送迎を行うことが必要と認められる利用者に対して、その居宅と事業所との間の送迎を行う。
- ⑩ 事業計画や社会資源の内容については、利用者等にわかりやすい方法で周知する。

令和3年度

特別養護老人ホームすこやか苑事業報告書（案）

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

利用者の権利擁護の推進にあたっては、「虐待の芽チェックリスト」で年2回自己評価し、集計・分析による課題の把握を行った。

令和3年度も、コロナ禍のため、面会については制限を設けたが、家族との結びつきを重視し、感染状況を踏まえながら、スクリーン越しや窓越し面会、タブレットによるリモート面会と柔軟に対応した。また、苦情相談受付や運営推進会議においても、ICT機器（タブレット端末）を使用し、利用者参加を推進した。その他、地域貢献活動や外部関係者（ボランティア含む）を招いての行事や各活動は、感染症対策により実施を控えた。

経営面では、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護で目標としていた、平均利用者数28.0人を0.1上回り28.1人となった。稼働率は平均96.7%とほぼ満床を維持することができた。短期入所生活介護では平均利用者数8.5人を目指し、第1四半期では9.0人を維持したが、体調不良に伴う入院から退所のケースが増加したこともあり、0.6下回る7.9人となった。稼働率は平均79.0%に止まった。

居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等との連携を強化し、新規利用申込者の獲得と入所待機者数の充実を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実

コロナ禍の制約がある中で、全体行事及びユニット行事を充実させることで、選択肢の拡充を図り、入居者が少しでも心身を活性化し、生きる意欲につながるよう取り組んだ。毎年恒例となっている夏まつりや新年会その他、新たにミニ運動会や文化祭を開催した。年度末には、おもひで上映会をとおして、1年間を振り返る時間を持つことができた。

入居者の心身の状況、要望に対応していくため、本人を交えたサービス担当者会議を開催し、施設サービス計画の見直しを6ヶ月から3ヶ月に短縮した。

(2) 医療的ケアの充実

年間職員研修計画に基づき、定期的に医療的研修会を開催した。また、看取り介護実施委員会では、看取り対象となった2ケースについて、振り返りを行い、改善点を検討した。

認定特定行為業務従事者においては、新たに2名の介護職員が資格を取得し、有資格者は6名となった。事業者登録においては、令和4年4月1日開始予定で登録が済んだ。

(3) 職員の人材確保と定着

令和3年度の採用者は8名（正職員2名、準職員3名、非常勤職員3名）。離職者は、6名（準職員4名・非常勤職員2名）。

新採用者及び転入職員には、すこやか苑独自の「新任職員研修プログラム」に沿って研修を実施し、また、個々の能力に見合った期間でマンツーマン指導を実施した

が人材の定着には至らなかった。

(4) 利用者の確保と経営改善

令和4年3月末時点で入所申込者数は46名となった。空床期間の短縮化を目標に、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携の強化を図った結果、地域密着型入所者生活介護では、前年度比で125%の収入増となった。短期入所生活介護では、目標数値を下回る結果となったが、前年度比で119%の収入増となった。

経営改善については、他地域密着型ユニット施設を訪問し、人員配置や事業内容について比較し、リースや業務委託の見直しを視野に入れて検討したが、年度内で根本的な見直し、改善には至らなかった。

(5) 職場環境の改善

令和2年度に立ち上げた委員会を継続し、介護職員の身体的負担の軽減(腰痛予防)と業務の効率化のために、ノーリフティングケアの推進と介護機器の導入を検討した。

2年目の今年度は腰痛予防対策・実施に重点を置き、①腰痛調査、②職場環境調査とその改善に取り組んだ。結果として、オムツ補充や排泄介助の動線が見直され、オムツ基地の設置、ユニットケアポーター(オムツカート)の導入によって腰痛予防に効果がみられた。介護機器の導入は実現できなかったが、スライディングボードや移乗用介助ベルト等の福祉用具を導入することができた。

ICT技術を活用した多職種連携については、インカムや現場でのタブレット活用に向けて検討中である。また、令和4年度からは、夜間オンコール体制の強化を図るために、スマートフォンを3台導入し、リモートで確認や対応ができる環境を整えることとしている。

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人数	1	1(非常勤)	1	3	22 【24】※1	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	2	3		36

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。
※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【24】に含む。

4 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
令和3年度内延入所者数	6人	令和3年度内延利用者数	15人
令和3年度内退所者数	7人	令和3年度内延利用件数	2885件
令和3年度末現在の入所者数	28人		

5 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 概況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和3年度の入退居状況については、入居が6人、退居が7人という状況であった。平均介護度は4.1、平均年齢は89.5歳となっている（令和3年度末時点）。

稼働率は、平均96.7%でほぼ満床の状態を維持し、目標を上回る結果となったが、第4四半期においては、長期入院もあり稼働率はやや低下した。

在宅復帰1名に対しては、住宅改修期間の受入先として、短期入所空床型を提供し、併設する短期入所の稼働率向上に努めた。

【入退居内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	6
退居	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	1	1	7
稼働率(%)	100	99.4	95.8	95.3	97.9	95.8	97.2	99.8	97.2	96.1	93.7	93.1	96.7

(2) 定員

29名（10名×2ユニット、9名×1ユニット）

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 概況

居宅の要介護者等に、利用者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

短期入所生活介護においては、前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、受入や利用方法に制限を設けた。

令和3年度の新規利用者は7名。平均介護度は2.8、平均年齢は89.8歳となっている（令和3年度末時点）。

稼働率は、平均79.0%で目標を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症対策を継続する中で、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携しながら新規利用者の獲得と継続性のある利用に努めた。

【入退所内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	7
退所	0	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	1	6
稼働率(%)	90.0	90.0	90.0	91.2	80.0	73.0	61.6	62.0	72.2	78.0	77.5	82.5	79.0

(2) 定員

10名（10名×1ユニット）

※上記他、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

6 事業の実施状況

(1) 年間行事

名称	実施時期等	参加者数	備考
観桜会	4/21	36人	苑敷地内の桜を鑑賞し、1Fホールでお茶会を行った
ドライブ外出①	5/17、18	21人	平和公園、合浦公園、浜館公園の散策を行った
すこやかカフェ	6/2	34人	和・洋菓子や飲物を注文してもらいカフェを演出した
ドライブ外出②	6/21、22	17人	合浦公園、平和公園、八甲田丸にて散策を行った
ドライブ外出③	7/20	2人	近隣のドライブと浜館公園の散策を行った
ねぶた観覧	8/2	35人	安生園・すこやか苑の敷地内でねぶた運行を観覧した
夏祭り・居酒屋	8/21	35人	夏に因んだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
敬老会	9/22	33人	職員がダンスを披露した。記念撮影や記念品を贈呈し、お祝いした
ドライブ外出④	10/12	12人	モヤヒルズ、青龍寺、浜館公園の散策を行った
ミニ運動会	10/20	27人	ユニット対抗でボーリングや玉入れ等を競い合った
やきいも会	11/17	32人	やきいもの作業工程を入居者に手伝ってもらい、出来上がった焼いもをおやつで提供した
文化祭	11/24	34人	職員、入居者による芸能発表や書道や華道の作品展示、お茶会を開催した
新年会	1/12	35人	職員による余興を披露し、獅子舞やおみくじで新年を祝った
節分会	2/2	32人	職員が扮した赤・青鬼を退治して福の神（おかめ）を呼び入れた
おもひで上映会	3/23	35人	一年間の活動をスクリーンで上映し、振り返った
ユニット内行事：母の日会、父の日会、七夕会、おやつ会、十五夜、ハロウィーンパーティー、クリスマス会、ひな祭り等を各ユニットで開催した。他、年2回大掃除を実施した。			

(2) クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
書道クラブ	月1回	延100人	4/21、5/19、6/16、7/21、8/18 9/15、10/20、11/10、12/8、1/5 2/16、3/16
創作クラブ	年3回	延98人	6/9、9/29、2/9
音楽体操クラブ	年3回	延66人	4/28、8/4、12/22

(3) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考																								
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態の観察等																								
体重測定	毎 月	全利用者																									
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等																								
通院・往診	随 時	通院が必要な利用者	(通院) <table border="1"> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>35人</td> <td>内科</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>1人</td> <td>精神科</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>3人</td> <td>神経内科</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>7人</td> <td>認知症外来</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科</td> <td>0人</td> <td>循環器内科</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>0人</td> <td>救命救急</td> <td>6人</td> </tr> </table> (往診) 歯科1人 ※延人数、短期入所利用者除く	泌尿器科	35人	内科	1人	整形外科	1人	精神科	14人	皮膚科	3人	神経内科	0人	外科	7人	認知症外来	4人	耳鼻科	0人	循環器内科	4人	歯科	0人	救命救急	6人
泌尿器科	35人	内科	1人																								
整形外科	1人	精神科	14人																								
皮膚科	3人	神経内科	0人																								
外科	7人	認知症外来	4人																								
耳鼻科	0人	循環器内科	4人																								
歯科	0人	救命救急	6人																								
口腔機能維持管理指導	月1回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言指導																								
機能訓練	週2回程度	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く																								
訪問理美容	第一・第三 水曜日ほか	121人 ※延人数	<table border="1"> <tr> <td>4月10人</td> <td>5月7人</td> <td>6月10人</td> <td>7月8人</td> </tr> <tr> <td>8月7人</td> <td>9月2人</td> <td>10月12人</td> <td>11月13人</td> </tr> <tr> <td>12月11人</td> <td>1月15人</td> <td>2月11人</td> <td>3月15人</td> </tr> </table>	4月10人	5月7人	6月10人	7月8人	8月7人	9月2人	10月12人	11月13人	12月11人	1月15人	2月11人	3月15人												
4月10人	5月7人	6月10人	7月8人																								
8月7人	9月2人	10月12人	11月13人																								
12月11人	1月15人	2月11人	3月15人																								

(4) ボランティアの受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
※新型コロナウイルス蔓延防止対策として、入居者と直接接触する活動は中止とした。			

(5) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（夜間火災想定）	5/27	53人	職員25人、利用者28人
防災訓練（水害想定）	8/11	39人	職員28人、利用者11人
防災訓練（夜間火災想定）	10/27	50人	職員24人、利用者26人

(6) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
新任職員研修会	4/1~2 4/5、6/17	計9人	高齢者施設としての基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニッ

	6/22～24 10/1、10/5 10/7～8		トケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応について
救命救急研修	4/28、11/17	計 22 人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/12、10/13	計 22 人	食中毒や感染症予防策、嘔吐時処理手順、新型コロナウイルスについて
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/23、1/26	計 25 人	認定看護師から、認知症理解について、社会福祉士から高齢者虐待防止についての指導
リスクマネジメント研修	7/14、12/15	計 26 人	ヒヤリハットの重要性や再発防止の取り組み、KYT トレーニングの実施
口腔ケアに関する研修	8/25	計 11 人	歯科衛生士から、高齢者の口腔ケアについて指導
看取りケア研修	9/29	計 13 人	ACP ガイドラインの確認のほか、演習を通じた死生観についての理解
高齢者のスキンケア	3/9	計 16 人	高齢者のスキンケアについて、外部研修の伝達研修

(7) 会議・各種委員会等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	年 12 回	各回 約 15 人	施設長からの指示事項ほか、協議伝達等
ユニットリーダー会議	年 12 回	各回 5 人	ユニットリーダーを中心にユニット運営について協議
ユニット会議	毎月 1 回 ※ユニットごとに開催	各回 約 5、6 人	各ユニット内の運営やケアについて協議
給食会議	年 12 回	各回 7 人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所 113 回 短期入所 14 回	各回 約 7 人	施設サービス計画や短期入所生活介護計画書作成など介護方針の協議決定
運営推進会議	年 6 回	各回 6 人	施設運営の現状報告、課題等へ対する助言等（利用者はリモート形式で参加した）
苦情解決協議会	年 4 回	6 人	各種苦情解決へ向けての協議
苦情解決第三者委員相談日	年 10 回	延 37 人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦情要望の聞き取りをリモート形式で実施
入所判定会議	年 7 回	各回 6 人	入居者の決定に当たり、決定過程の公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・感染症対策委員会	年 12 回	各回 約 10 人	月ごとの事故分析・対策検討 食中毒・インフルエンザ・新型コロナウイルスなど感染症対策について協議
虐待防止・身体拘束廃止委員会	年 4 回	各回 約 6 人	虐待が疑われる案件や身体拘束が疑われる案件等について協議
褥瘡・排泄ケア委員会	年 12 回	各回 約 6 人	褥瘡予防改善に向けた検討 排泄ケアについての問題点を検討
ノーリフティングケア推	年 6 回	各回	介護機器やノーリフティングケア

進委員会		約 5 人	の導入に向け検討及び腰痛調査、職場環境調査の実施
看取り介護実施委員会	年 11 回	各回 約 10 人	看取り介護の振り返りと指針やマニュアルの見直し
研修委員会	年 12 回	各回 約 6 人	内部研修・研究発表に関する企画・実施
広報委員会	年 3 回	各回 約 5 人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年 3 回	各回 5 人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など

(8) 実習の受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
令和 3 年度東奥学園高等学校福祉科介護実習	7/6～8/12 8/23～9/3	各回 3 人	東奥学園高等学校 3 年生介護実習
2021 年度青森明の星短期大学介護実習	9/6～9/25	1 人	青森明の星短期大学 1 年生ⅡA 介護実習
令和 3 年度青森県立保健大学社会福祉基礎実習	7/7	3 人	青森県立保健大学 1 年生社会福祉基礎実習
令和 3 年度青森県立保健大学ソーシャルワーク実習	8/16～8/25 9/8～9/30	1 人	青森県立保健大学 3 年生ソーシャルワーク実習
令和 3 年度東北栄養専門学校給食管理実習	8/2～8/6	3 人	東北栄養専門学校 3 年生給食管理実習